



謹啟

先生為德在

康亦自

先生言可

師之言

先生言可

先生言可

先生言可

先生言可

先生言可

先生言可



少生所失年
任海之石者不
所事未未誠
念解教を多ん
少り孝子屋外
空才はあれど政
友片の操景亦
西長友の控血
寺、老仙の
起ち一以序
を及却一控
字名政と挽
唯古の逸撰

名政を授る

此右の遺怪

以上より

少産古年

東東

南来玉斜

字詠野閑好

是れ時るに對

了新居を築

在来十百の向

胞に發言告

一人が一人の

りる限りを

一人が一人の心
あり限りを尽し
取玉の望と空の
世一の平古是
は就了の奇文
に早解の了了
本末の龍と書
名と東のかせうを
仙ととえの解
望ととあお現
ゆ富の述統を
以多同胞の心を

内閣の述懐
以て同胞の心を
有る事を力復せ

加増の弁は今日

本土の大業を有る

ことと居るは

世の活神

中々有る

而世有力な人

物の全部を維持

を以てして

光るべきは

二つの

そ、紀、山、山

光、石、松、木、山

二、三、の、ゴ、ロ、ツ、キ、共

ゴ、キ、キ、走、り、一

合、入、り、日、回、り、に

キ、キ、キ

共、木、の、物、年、は、ら、る

限、り、を、長、一

名、お、り、を、あ

毛、仙、の、た、の、世

身、の、信、神、申、一

あ、ま、一

這、来、り、申、申、の

あ、ま、一

おと

この年五車守の

余由これは後難

なる承る口於し

此は初め徳を均

たし一は危仙の

名産がう用腕

の得命も知る

かたのみ

授支の活神と

其の信用がの

に懸定まかう如と

先づいふものいふ

何れ神の御果也

先づこの心

何れも之の如き

はたしやう

接しず

外に神政

を承認し

事柄

に一種の

急

便

中

事柄

老幼

魯西始後便

甲子

庚子之春

老伯之言上

去交系也

田之好

一月十日

西書附

田中先生

乞中執虎